



INNOVATOR'S
GARAGE

～次代を創る研究者による最先端の研究紹介～

アカデミックナイト 第14回

主催：一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

中部圏の大学で生まれている数多くの技術シーズと企業とのマッチングを目的として、第14回アカデミックナイトを開催します。アカデミックナイトでは、各回テーマごとに次代を創る研究者が登壇し、最先端の研究を紹介するとともに参加者と議論することで、産学連携を深めます。今回のテーマは「SDGs」です。ぜひご参加ください。

【未来へつなぐソーシャルデザイン】

講演 1 (18時00分～19時00分)

「ウィズコロナ・アフターコロナ時代を生きる持続可能な中部地域創生とSDGs」

1970年代高度経済成長の一方で発生した「四日市喘息」。この発生メカニズムや克服の政策を学ぶことで、アジア諸国や新興国との国際環境協力を通じた、Win-Winの成功事例を創る時期に来ています。

中部地域の環境先端技術による国際環境協力、企業の社会的責任（CSR）から共通価値の創造（CSV）への展開、四日市喘息の教訓を活かした、過去の負の遺産を未来の正の資産に変えるため、経済・環境・社会との調和の取れた持続可能な開発目標（SDGs）による「世界一持続可能な中部地域創生」について、21世紀に求められる産官学民のパートナーシップのあり方、人財について考えます。

三重大学 地域イノベーション学研究科

特任教授 朴 恵淑 氏（三重大学 名誉教授）



講演 2 (19時00分～20時00分)

「多面的な効果を発揮するグリーンインフラ、ランドスケープデザインのまちづくりにおける可能性」

気候変動に伴う災害の激甚化、高頻度化、また2020年から世界的な感染拡大が続くCOVID-19による行動制限など、これまで予測してこなかった変化に対応しながら、日々の生活の魅力を高めるデザインの可能性について、国内外の事例を紹介します。

特に今回は、東日本大震災からの復興、およびコロナ渦における行動制限下の屋外行動を誘発するデザイン事例などを紹介します。

信州大学 社会基盤研究所地域デザイン部門

准教授 上原 三知 氏



日時/ 2021年2月18日(木)

18時00分～20時00分（受付開始 17時40分）

会場/ ナゴヤ イノベーターズ ガレージ【定員30名】

参加費/ 無料

※本プログラムは中部経済連合会およびナゴヤイノベーターズガレージ会員向けプログラムです
※今回、交流会は中止させていただきます

お問い合わせ先



INNOVATOR'S
GARAGE

一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

<https://garage-nagoya.or.jp>

〒460-0008

名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアパーク4F ナゴヤ イノベーターズ ガレージ

詳細・申込みは
こちらから！



・講演1

朴 恵淑 氏

三重大大学 名誉教授、地域イノベーション学研究科 特任教授

略歴：1987年筑波大学大学院地球科学研究科 博士後期課程修了（理学博士；地理学・水文学）、筑波大学大学院環境科学研究科文部技官、三重大学人文学部教授、三重大学理事・副学長などを経て2020年から現職。専門分野は、環境地理学（大気汚染・地球温暖化）、国際環境協力、ESD、SDGs。

研究・技術シーズ概要

四日市公害から学ぶ「四日市学(YOKKAICHI Studies)」とESDとSDGsの連携によるグローバル人材育成と持続可能なアジア創生

四日市公害から学ぶ「四日市学」は、1970年代の日本の高度経済成長期を支えた1960年代の四日市コンビナートからの大気汚染による四日市ぜんそくによって住民の命が犠牲となり、伊勢湾の水質汚濁が加わり、海と陸の生態系が破壊された四日市公害の過去を知り、現在を見直し、未来像を提案するための学問横断的総合環境学である。また、地域に根ざし、世界へ通用するグローバル人材育成のため、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育(ESD; Education for Sustainable Development)の有効なツールとなる環境教育学である。さらに、2015年9月の国連サミットで採択され、2030年までに全世界が取り組むべき17の目標からなる国連持続可能な開発目標(SDGs; Sustainable Development Goals)を基本軸とする、環境・経済・社会との調和からなる持続可能な地域創生を図るための科学的知見のプラットフォームでもある。

SDGsは、2015年9月の国連持続可能な開発サミットにおいて全会一致で採択された、2016年～2030年までに発展途上国、新興国及び先進国のすべての国が取り組む国際的な目標である。SDGsは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が持続可能な社会を実現するための重要な指針となり、行政・企業・学校・市民など全てのステークホルダーが連携するグローバル・パートナーシップが求められている。SDGsは、持続可能な開発の重要な要素として、5つのP、「人間;People」「地球;Planet」「繁栄;Prosperity」「平和;Peace」「パートナーシップ;Partnership」を挙げている。SDGsは、持続可能な世界を実現するため、17の目標及び169のターゲットから構成されている。

【PRポイント】

本講演では、SDGs（国連持続可能な開発目標）とは何か。持続可能な地域創生はどうあるべきか。「世界一持続可能な中部地域創生」のための産官学民のパートナーシップのあり方を考えます。

・講演2

上原 三知 氏

信州大学 社会基盤研究所地域デザイン部門 准教授（農学部併任）

略歴：九州大学・芸術工学博士・地域計画、ランドスケープデザイン

研究・技術シーズ概要：

1.日本の都市・地域開発と自然災害の経験を活用したSDGsと国際貢献

日本で初めて総合的な単位での国土計画を行うために設立された国土庁の総合的な環境評価資料と米国の環境アセスメント手法を用いて、東日本大震災の被災地における災害リスクの可視化や、実際の復興支援を行ってきた。その中で、実際に東北で数少ない人口回復を実現した地域の復興計画に関わることができた。このような災害からの復興の成功モデルのテンプレート化の研究を継続する。

日本は、アジアの中で最初に産業革命と都市化を達成し、現在では人口減少高齢化という成熟期に突入している。その上で、世界で最も自然環境が多様で、災害も多い我が国の特性と経験を活かした持続可能な開発に資する研究成果をアジアや世界に向けて発信する。国内外の持続可能な地域デザインモデルの比較分析を通じて、災害に強く、魅力的な都市づくりのサポートと研究成果の社会実装を行う。

2.公共緑地空間へのアクセスビリティの改善による医療費の削減と地域ツーリズムモデルの開発

日本は、国土に占める森林の比率が世界で第3位(約60%)ながらも、その利用率が世界でもワーストである。このように有効に活用されていない環境を有効活用するために、英国のBTCVと呼ばれる環境保全型のツーリズムプログラムを参考に、林内での環境保全プログラムや、散策プログラムが与えるリラクゼーション効果の測定を継続してきた。また、英国における森林だけでなく、田園地域、海岸、集落等の多様な地域をつなぐフットパスの日本における社会実装とその効果の検証を継続して行う。

【PRポイント】

これまでの都市一極集中、農山村の過疎化という流れの中で、自然災害、コロナによる不可逆的な生活スタイルの変化が起こることが予測されます。本講演では、SDGsの目標と連動する、柔軟性や回復力のある新しい街づくりや、その実現のためのヒントについて、みなさんと一緒に考える時間を作りたいと思います。